

■右衛門佐局 請われて、朝廷女官から大奥女中に転身、総取締となり、京風を入れた才媛。

えもんのすけのつぼね

御蔭参流行・1650＝ 京都で、藤原北家道隆の流れの坊門家の支流にあたる水無瀬中納言氏信の娘に生まれる。

徳川家光没・1651＝ 1歳：

明暦の大火・1657＝ 7歳：

朱舜水帰化・1659＝ 9歳：

殉死の禁止・1663＝13歳：この年、霊元天皇が即位、
・・・・・・1664＝14歳：この年、摂関家出の鷹司信子が後の將軍綱吉の正室になる。

酒井忠清大老1666＝16歳：

初め後水尾院に出仕し、

足利学校再建1668＝18歳：

ジャクインの乱 1669＝19歳：この年、綱吉正室の信子の妹鷹司房子(新上西門院)が入内し、霊元天皇の女御になる。

霊元天皇の女御新上西門院に仕えて常盤井局と称し、

・・・・・・1677＝27歳：

徳川綱吉將軍1680＝30歳：*綱吉が5代將軍となり、正室信子が御台所となる頃には、宮中随一の才媛と認められていた。
御台所信子は綱吉との間で子に恵まれず、夫綱吉の気持ち側室お伝の方に移り、大奥の勢力争い生じてきたことから、学問好きの綱吉の相手にふさわしい才媛をつけようと、

八百屋お七・1683＝33歳：この年、霊元天皇の中宮となった叔母の新上西門院に訴え、その推薦で、

堀田正俊暗殺1684＝34歳：*將軍付上臈御年寄として江戸城本丸大奥入り、名を右衛門佐と改める。御台所の狙いはあたり、学問以上にその魅力を受した綱吉は、たちまち虜となり、御手附ながら事務方の最高位の大奥総取締の役に就く。その後は大典侍(寿光院)や新典侍(清心院)といった公家の姫を綱吉の側室として迎え入れることに奔走しながら、江戸城の大奥に京風の雅をもたらしただけでなく、江戸の文化・文芸にも大きな貢献をなし、

・・・・・・1686＝36歳：

生類憐令始・1687＝37歳：この年霊元天皇が譲位したのに伴い、鷹司房子に新上西門院の女院号が宣下される。三代將軍家光の側室お万の方の例に倣ったものだが、より実質的な役割で、大奥という職場で仕事をしたキャリアウーマンという意味では、むしろ春日局に近い。

・・・・・・1689＝39歳：*綱吉に推挙して、北村季吟・湖春父子を召し出し、初代歌学方とし、

湯島聖堂・1690＝40歳：_住吉具慶に土佐派絵所を開かせ、江戸に土佐派が確立して行くなど、

別子銅山始・1691＝41歳：懐妊したが、

世間胸算用・1692＝42歳：吹上御苑で催された観梅の宴の際、右衛門佐局が'御園生にしげれる木々のその中にひとり春知る梅のひと本'と詠み、これを賞した綱吉から'梅が枝に結び付けよ'と命じられ、踏み台上に登ったときに、目が眩んで倒れたために流産、残念ながら、將軍生母とはならなかった。巷では、対抗勢力のお伝の方の依頼を受けた護持院隆光の呪詛で流産したと伝えられる。

生類憐令頂点1695＝45歳：

大典侍局が、能・狂言役者たちを江戸に呼び寄せたことあって、江戸の京風化が本格化して行くなか、

団十郎刺殺・1704＝54歳：

・・・・・・1706＝56歳：_没した。